

平成 29 年 1 月 10 日

会員各位

一般社団法人 触媒学会  
会長 尾中 篤

## 平成 29 年度触媒学会会長候補者信任のための会員投票について(お願い)

本会では平成 29 年度より、正会員（シニア会員、S 会員を含む）による会長候補者の信任投票を実施します。本投票により信任されますと、平成 29 年度会長候補者は会長最終候補者となります。なお、会長最終候補者は 5 月開催予定の定時社員総会にて理事として選任後、引き続き開催される理事会にて平成 29 年度会長に選任されます。

投票は原則としてウェブ投票により行いますが、ご希望により郵便での投票も受け付けます。

平成 28 年 10 月 22 日開催の役員候補者選考委員会および 12 月 3 日開催の理事会において、平成 29 年度会長候補者についての審議が行われ、その結果、江口浩一氏（京都大学）が候補者として選出されました。

つきましては、候補者の「経歴と会長としての抱負」（別紙および本会ウェブサイト記載）をご覧のうえ、下記によりご投票くださいますようお願いいたします。

### 記

#### 1. ウェブ投票による方法

ウェブ投票を行うには、会員マイページ (<https://www.shokubai.org/general/kaiin/mypage.html>) の会長候補者信任投票のバナーからログインし、手順に従って投票をお願いします。なお、このバナーは平成 29 年 2 月 1 日(水)午前 10 時に公開予定です。

#### ■会員 ID(会員番号)およびパスワードの確認

会長候補者信任投票のバナーからログインする際に、会員 ID とパスワードが必要になります（会員マイページ・触媒 OnTheWeb の会員 ID,パスワードと同じです）。パスワードをお忘れの際はこちら (<https://service.gakkai.ne.jp/solti-asp-member/auth/CATSJ>) からご確認ください。

次の場合は事務局 (catsj@pb3.so-net.ne.jp) にご連絡ください。

- ・会員 ID(会員番号)を忘れた場合。
- ・ご登録されているメールアドレスを変更された場合、あるいは未登録で、「パスワードをお忘れの場合（再発行）」ボタンを利用できない場合。

#### ■投票期間：平成 29 年 2 月 1 日(水)午前 10 時から 2 月 28 日(火)正午

投票は 1 回限りです。提供された情報は、会長候補者の信任投票業務以外の用途に使用することはありません。

## 2. 郵送による投票方法

郵送による投票を希望される場合には、事前に投票用紙の送付を請求していただく必要があります。

### ■投票用紙の請求方法

会員番号、氏名および郵送先住所を明記の上、Fax または郵便でご請求ください。電話での申し込みには応じかねますので、予めご了承ください。

請求先： 〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台 1-5 化学会館 3 階  
一般社団法人 触媒学会 事務局宛て FAX：03-3291-8225

■投票用紙の請求期間：平成 29 年 1 月 10 日(火)から 2 月 10 日(金)

■郵送による投票期間：平成 29 年 2 月 1 日(水)午前 10 時から 2 月 28 日(火)正午(必着)

投票用紙の送付先： 〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台 1-5 化学会館 3 階  
一般社団法人 触媒学会 選挙管理委員会 宛て

以上

(別紙)

## 触媒学会会長候補者「経歴と会長としての抱負」

1) 候補者指名

江口浩一

2) 生年月日

1956年10月23日

3) 略歴

1984年 九州大学総合理工学研究科 博士課程修了

1984年 九州大学総合理工学研究科・助手

1986年 九州大学総合理工学研究科・助教授

1998年 九州大学総合理工学研究科・教授

2000年 京都大学工学研究科・教授（現在に至る）

この間1998年～2002年 東京大学工学系研究科 併任

2013年～現在 科学技術振興機構 戦略的研究推進事業

「エネルギーキャリア」研究統括 併任



4) 所属・職位

京都大学工学研究科・教授

5) 専門分野

環境触媒、燃料変換触媒、燃料電池、固体化学

6) 受賞歴

1990年 日本化学会進歩賞

2012年 触媒学会 学会賞（学術部門）

2014年 石油学会 学会賞

7) 会長としての抱負（350字程度）

触媒の化学工業における重要性は認識されていますが、エネルギー問題や環境問題、石油化学体系の変化など触媒を取りまく状況は変化しつつあり、情報を交換し発信する場としての触媒学会の重要性はますます増していくものと考えられます。触媒が関連する境界領域は拡大していますが、それらの境界領域に対して触媒学会は積極的かつ柔軟に取組み、中心的な役割を演じ、創造的なイノベーションを発信していく舞台へと発展させる必要があります。また、触媒の開発及び分野展開に加えて、学会としての役目である触媒科学の学理としての重要性を尊重する立場を堅持し、触媒を専門とする科学者、技術者の育成の場としても機能するよう努めます。さらに、日本の触媒技術、触媒研究を国際的に発信するよう触媒学会が機能していく必要があると考えます。